

小学部5年～中学部 EXPO体験学習

9月15日(火)、小学5年から中学3年までの児童生徒で、ミラノ国際博覧会に体験学習に行きました。



平日にも関わらず、多くの入場者で行列ができており、苦勞をしながらの見学となりました。小学部5・6年生を3つのグループに分け、中学部を2つのグループに分け、各グループに教員が付いての活動となりました。





総合的な学習として、「食」をテーマにしたミラノ万博の各国のパビリオンに調べ学習に行きました。世界の食文化に触れることで、いろいろな国の食に対する考え方の違いを考えたり、表現の工夫を探ったりするなどのめあてを考え、学習に臨みました。質問を考えていき、アテンドや観客にインタビューをしたり、展示を熱心に見たりと充実した時間を過ごしました。



開催国のイタリア館を見学に組み入れたグループが多く、テーマの「食」以外の内容の展示に感心しながら見学しました。

【生徒児童の感想】日本館とイタリア館をじっくり見て回りました。また、ブラジル館とアルゼンチン館の周りで、並んでいる人や説明している方々にたくさんインタビューすることが出来ました。来場者はどんな気持ちでパビリオンをみているかまとめていきたいと思います。

食がテーマのミラノ万博では、イタリアの各州の郷土料理を扱ったフードコートも見どころの一つです。今回の昼食はお弁当ではなく、児童が各自二十ユーロを持参して、そのフードコートで食べました。



日本館では、貴賓室入口から優先入場させていただき、貴重な体験に緊張の面持ちの児童生徒たちでした。出展テーマ「Harmonious Diversityー共存する多様性ー」を、各展示から感じ取りながら真剣に見学していました。



日本館では、普通は入れない貴賓室に入ることができました。本来であれば、そこは国賓の方しか入れないお部屋だそうです。また、日本館の館長さんから、日本館の「来場者に伝えたいこと」を直にインタビューすることができました。

各国の食糧生産の共通点や相違点などから、今後の食文化や農業開発について展望をもつことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

